

7月15日(水)のブラジル株式市場の大幅高について

HSBC投信株式会社

- ・ 7月15日(水)のブラジル株式市場は大幅高となり、ボブスバ指数は前日比+5.0%の51,296.7と5万ポイント台を回復、過去約2ヶ月間で最大の上昇率を記録しました。ボブスバ指数を構成する64銘柄中、62銘柄が上昇し、特に石油大手ペトロブラス、素材大手ヴァリ(旧リオドセ)が全体の上昇を牽引しました。
- ・ 株価上昇の主な背景としては、1)米国株式市場の上昇と投資家のリスク許容度の改善、2)原油・金属市況の上昇、が挙げられます。
- ・ 金融市場が安定を取り戻す中で、新興国株式市場の中では経済ファンダメンタルズが比較的良好なブラジルへの投資が見直されています。政府は大型住宅建設プロジェクトを打ち出すとともに、最近では自動車、白物家電、建設資材に対する減税措置の期限を延長、さらに発電機、冷凍設備など計70品目の資本財に対しても同様の減税措置を打ち出すなど、積極的に景気対策を推進しています。ブラジル中央銀行も、本年1月以降、大胆な金融緩和を進めており、既に計4.5%の利下げを実施、次回7月21日、22日の金融政策委員会(COPOM)でも0.50%の利下げを行うと当社では予想しています。経済指標は景気の回復を示しており、ここに来て市場関係者の経済成長見通しも改善傾向にあります。今後は景気が回復軌道に乗る中で、ブラジル株式市場への投資に一層注目が集まることが期待されます。

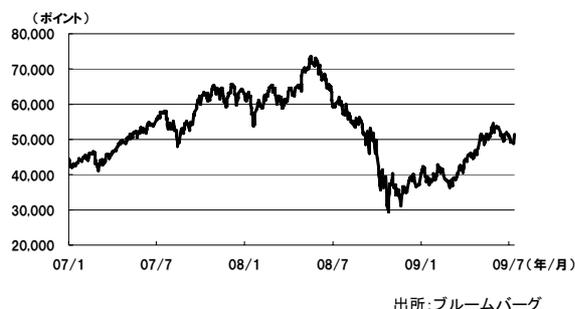
ボブスバ指数は前日比+5.0%の上昇

7月15日(水)のブラジル株式市場は大幅高となり、ボブスバ指数は前日比+5.0%の51,296.7と5万ポイント台を回復、過去約2ヶ月間で最大の上昇率を記録しました。

同日はボブスバ指数を構成する64銘柄中、62銘柄が上昇しました。中でも、石油大手ペトロブラスと素材大手ヴァリ(両銘柄でボブスバ指数の時価総額の3割強を占める)が全体の上昇を牽引しました。一方、通貨リアルも堅調で、対米ドルで前日比+1.4%、対円で同+2.2%となりました。

※末尾の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をお読みください。

ボヘスバ指数の推移
(2007/1/3~2009/7/15)



レアルの対円、対米ドル推移
(2007/1/3~2009/7/15)



株価上昇の背景

今回の株価上昇の主な背景としては、1) 米国株式市場の上昇と投資家のリスク許容度の改善、2) 原油・金属市況の上昇、が挙げられます。

1) 米国株式市場の上昇と投資家のリスク許容度の改善

15日(水)は、米国株式市場が前日の引け後に発表された半導体大手インテルの売上高見通しが市場予想を上回ったことなどをを受けて大幅高となり、ニューヨークダウ工業株30種は前日比+3.1%の8,616.2と約1ヶ月振りの高値をつけました。同じく前日発表された米金融大手ゴールドマンサックスの4-6月期決算が大幅増益となったこともあり、企業収益に対する懸念が後退、さらに米国の6月の鉱工業生産指数が下げ幅を縮小、7月のニューヨーク連銀製造業景気指数が市場予想以上に改善したことも好感されました。米国における株式市場の上昇、企業業績懸念の後退、景気回復期待とそれに伴う投資家のリスク許容度の改善がブラジル株式市場にも追い風となりました。

2) 原油・金属市況の上昇

15日(水)は、原油価格が大幅高となり、WTIは前日比+3.4%の61.54米ドルと60米ドル台を回復しました。米国景気回復とエネルギー需要の高まりへの期待、市場予想を上回る米国における原油在庫の減少、などが上昇要因となりました。これを受けて、ブラジル株式市場では、石油大手ペトロブラスが前日比+4.0%と上昇しました。また、同日は景気回復期待を背景に金属価格も全般的に上昇しており、前日比でアルミニウム+3.1%、銅+4.3%、亜鉛+3.0%、ニッケル+2.3%、鉛+2.5%となっています。こうした中で、素材大手ヴァリアが前日比+8.3%と急伸しました。米銀行大手が同社の投資判断を「中立」から「買い」に引き上げたことも上昇要因となりました。また、鉄鋼需要拡大への期待からウジミナス(前日比+4.8%)、ゲルダウ(同+8.3%)、CSN(同+6.5%)など鉄鋼株も大きく買われました。

注目されるブラジル株式市場

金融市場が安定を取り戻す中で、投資家のリスク許容度の改善も見られ、新興国株式市場の中では経済ファンダメンタルズ(基礎的諸条件)が比較的良好なブラジルへの投資が見直されています。実際、ブラジル株式市場は、年初来、ボブスパ指数が+36.6%と新興国市場の中でもパフォーマンスの高い市場の一つとなっています。

政府は大型住宅建設プロジェクトを打ち出すとともに、最近では自動車、白物家電(冷蔵庫、洗濯機など)、建設資材に対する工業製品税の減税期限を最長で本年12月末まで延長、さらに発電機、冷凍設備など計70品目の資本財に対しても同様の減税を実施するなど、積極的に景気対策を推進しています。中銀も、本年1月以降、大胆な金融緩和を進めており、既に計4.5%の利下げを実施、次回7月21日、22日の金融政策委員会(COPOM)でも政策金利(Selic)を0.50%引き下げ、8.75%とすると当社では予想しています。

小売売上高、鉱工業生産、雇用者増減数など、国内景気指標は景気の回復を示しており、ここにきて市場関係者の経済成長見通しも改善傾向にあります。中銀の市場関係者に対する調査(7月10日現在)では、2009年の実質GDP(国内総生産)成長率予想は-0.34%と1週間前の-0.50%、4週間前の-0.55%から上向いています。ブラジル経済は昨年第4四半期から本年第1四半期にかけて2四半期連続で前期比マイナス成長に陥りましたが、第2四半期以降はプラス成長に戻り、内需主導で景気は回復局面に入ることが見込まれます。当社では、実質GDP成長率は2009年の-0.3%に対し2010年は+4.1%と予想しています。また、景気が回復する中で、企業収益も特に内需関連企業を中心に第2四半期から第3四半期にかけて予想を上回る可能性があります。さらに、通貨レアルも安定化が見込まれる中で、今後、ブラジル株式市場への投資に一層注目が集まることが期待されます。

以上

＜関連するファンドに関わる事項＞

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎にリスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては「投資信託説明書(交付目論見書)」を良くご覧下さい。

お客様には投資信託のご購入にあたり、以下の費用をご負担いただきます。

○申し込み時に直接ご負担いただく費用

- 申込手数料 上限 3.675%(税込)*

○換金時に直接ご負担いただく費用

- 信託財産留保額 上限 0.5%*

○投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

- 信託報酬 上限年 2.1%(税込)*

○その他費用の詳細は各々の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご確認下さい。

*費用の料率につきましては、HSBC 投信が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係る費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧下さい。

HSBC 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 308 号

(社)投資信託協会会員/(社)日本証券投資顧問業協会会員

当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。